

人と人とのつながりを絶やさないように ～これからの学区福祉委員会活動について～

令和2年6月30日
宇治市社会福祉協議会
(コラボネット宇治)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、約3か月もの間、ご近所同士のつながりづくりや支え合いの取組みに大きな制限を受けてきました。日頃は、さほど意識をしなくても自然と傍にあった「人と人の普段のつながり」が制限されることで、地域の中で孤立しがちな高齢者や生活に不安を抱える人が、健康不安や精神不安、機能低下などにより、生活に困難を抱えることも増えています。緊急事態宣言の解除後、社会が動き始めていますが、いまだ新型コロナウイルス感染症への不安が払拭されていない中で、これからの地域福祉活動をどう進めていくのかは手探りの状態です。一方で、当会が行った「新型コロナウイルス感染症拡大による緊急アンケート」では、地域活動のリーダーの人たちから、「つながりづくりを進めてきた自分たちの役割を再認識した」「一緒に考えられる仲間がいてよかった」という声が寄せられました。活動者にとっても、日頃の活動を安心して進めていくためには、「同じ思いを持つ人同士のつながり」が大切であるということが明らかになりました。人が安心して生活をしていくためには、誰かと、何かのつながりを実感できることが大切です。その安心感を培っていくために、新型コロナウイルス禍の中でできる、今後の学区福祉委員会の取組みが重要となっています。

1、活動を「おこなうこと」ではなく、何のために「おこなうか」を大切に。

◎誰かに「気にかけてもらっている」「連絡がもらえてうれしい」など、さりげないことが孤立や孤独を防ぎます。新型コロナウイルス禍の中で、これまでの活動の形に捉われずに、つながりを持つ工夫をしていきましょう。

(取組み例)

- * 改めて一人暮らしの方など気になる人の情報の把握と整理を進めましょう。電話での声かけにより、会わなくても、日頃から個別にやり取りしておくことで「専門機関に相談することはおっくうだけれど、ちょっと聞いて欲しい」という時の安心感につながります。特に特殊詐欺など、不審な電話などが増えている中で、福祉委員さんが身近な相談者であることはとても心強いことです。
- * 密集や飛沫の発生が高まる会食会は控え、調理業者の弁当を届けるなどによる、見守りや声かけを続けましょう。
- * 緊急アンケートの回答にも「ボランティアや福祉委員さんからのお手紙がうれしかった」という声がありました。福祉委員さんの体力低下予防も兼ねて、おたよりや広報紙などをポスティングすることを通して、見守りの気持ちを届けましょう。

- *往復はがきを活用して、近況を聞くなど、相互のやり取りをしてみましょう。
- *体操やウォーキングなど、屋外を活用して、定期的、また短時間で密を避けながらできることをして、お互いに顔を合わせる場作りをしましょう。

2、これから先を考えて、今だからできることをやってみよう。

◎こんな時だからこそ、地域の声を聞く取組みや、地域の中にある様々な活動者や団体などとのつながりをつくりながら、地域で「何が大切なのか」「何ができるのか」を共有することを考えてみましょう。

(取組み例)

- *地域に住む人の中に、どんな困りごとや不安があるかを調査してみましょう。
- *新型コロナウイルスの影響で、地元のお店や事業所なども、注文が激減したなどの影響が出ています。だからこそ、活動に必要な注文や品物を地元のお店に頼むことで、お商売をしている人たちにも、地域福祉活動の良き理解者となってもらいましょう。
- *地域内のサロンや当事者団体、お店や福祉施設などから、コロナウイルスの影響の中で、工夫をされていることや近況を聞き取り、学区福祉委員会の広報紙に掲載して行きましょう。様々な情報を集約することで、学区福祉委員会の PR と理解者を増やすことにもつながります。
- *スマホを持っている人が増えているので、福祉委員同士で、オンライン会議のやり方を学ぶ時間を持ってみましょう。また、オンライン会議のやり方の勉強会を企画して、自治会や町内会の人など、周りに呼びかけ、つながりを作ることを意識してみましょう
- *地域の様々な活動団体には、行政等からの補助金が活用されていますが、担当課ごとに補助金が交付されることに連動して、地域の活動も自然と縦割りになりがちです。新型コロナウイルス禍の中だからこそ、各団体が一丸となって地域での取り組みを進めることも必要です。これまで共催してきた催し物などが自粛傾向にある中で、各団体が連携してできることが無いかを意見交換する場づくりを考えてみましょう。

3、「新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動アンケート」からのご意見

(※学区福祉委員会回答分からの抜粋)

- *一人暮らし高齢者の電話番号は把握しておく方がいい。電話での声かけができない。
- *福祉委員は、一人暮らしの方などの身近な存在なので、不安や調子を聞くことも大事。
- *自分がウイルスを持っているかもしれないので、いつも声かけしている人に会うことも難しい。「ここ置いとくね」と何か物をもっていけることができれば声もかけやすい。
- *幹事会を開けない中で、代表としての自分の判断で物事を進めることには不安がある。
- *日頃の顔見知りやつながり、学区の活動があるからこそ、こういう時にも声かけできる。
- *今回のことが20年前であれば、みんなでマスクを作って配ろうとなっていた。時代や地域の要望に依って行くのが地域福祉活動だと思う。

- *いつもは活動や報告に追われてバタバタしている。こんな時だからこそ一度立ち止まって、福祉委員会の活動の意味を考えらえる時だと思う。
- *状況が落ち着いたら福祉委員それぞれから、この間どうだったかの意見集約をしたい。

4、市内で、実際に取り組みされている活動事例

- *行事ができない分、福祉委員会の広報紙を臨時発行する準備を進めている。
- *NHKのみんなの体操をテレビで見てやってみてねと声をかけています。
- *お家でできる体操や脳トレ等のプリントを訪問しお渡ししました。
- *“おうちじかん”をどのように過ごされていたのか、再開したときに自慢大会のようなものができたら良いなと思い、お家で写真を撮ってもらったりしています。
- *近所の公園に集まって、短時間ですがラジオ体操を始めています。風通しの良く、お互いの顔をみられるきっかけになっています。

5、活動を進めるにあたっての注意事項

- *活動にあたり、自分や家族のことにも配慮しながら、お互いに決して無理のないようにしましょう。自分がよくても、家族が感染を不安に思われることで参加を見合わせざるをえない場合もあります。相手の思いや判断を尊重するようにしましょう。
- *発熱や風邪症状など体調不良のある場合は活動に参加することを控えましょう。
- *活動に参加する際は、マスクを着用しましょう。また、常に石けんによる手洗いや手指の消毒を心がけましょう
- *「3密」（密集・密接・密閉）を避けましょう。
- *対人距離を確保して密集しないようにしましょう。（少なくとも前後左右1mは空ける）
- *利用する施設が示す定員を守り、参加人数の調整をしましょう。
- *密接による飛沫や接触感染の発生を抑えましょう。
- *会話をする際は、可能な限り真正面を避けましょう。
- *大声を出したり、呼気が激しくなったりする活動は控えましょう。
- *物を介することは控えましょう（例：飲み物は持参する。資料の廻し配布をしない等）
- *冷暖房などを併用しながら、窓やドアを開けて常に換気を行いましょう。
- *施設等を利用する際の感染症対策に努めましょう。
- *施設管理者の指示に従いましょう。
- *机、イス、ドアノブ等、多数が触れる場所については、アルコール消毒液で拭き取りましょう。
- *感染者が出た場合に追跡を可能にするために、参加者名簿の作成など、連絡先の把握に努めましょう。